Vol 32 No. 9242 Friday October 1 1937 TAIRIKU NIPPO 昭和十二年十月一日（金曜日）第九千二百四十二號

大陸日報

TAIRIKU NIPPO
(THE CONTINENTAL DAILY NEWS)
PUBLISHED BY
TAIRIKU NIPPO SHA, LTD.
213 & 218 CORDOVA ST. E.
VANCOUVER, - B. C.

本紙定價（前金）
壹ヶ月七拾五仙
四弗貳拾五仙
壹ヶ年八弗貳拾五仙
營業所
大陸日報社
晚香坡市東カドル
電話ダグラス五五三三

舊評の
大陸日報
讀むなら
廣告するなら
印刷するなら
舊評の

南支方面海上のジヤンク 武裝して我が艦艇に抵抗!!

問題のジヤンクの正體を曝露して 認識改めよと海軍省で發表

東京一日（午後七時發表、海軍省發表）——今次支那事變に際し死歿せる者に對する特別賜金賜與規定を制定、一日陸軍省告示を以て發表した、その要件

第一條 陸軍々人軍屬、嘱託及雇員にして昭和十二年七月七日以後直接支那事變に關する勤務に從事し（一）戰死又は戰傷を受け之が爲該傷病の日より二年以内に死歿（二）事變地に於て戰傷以外の傷痍を受け之が爲該傷病の日より三年以内に死歿又は疾病にかゝり之が爲該傷病の日より二年以内に死歿した時（三）事變地以外の地で戰傷以外の傷痍を受け之が爲該負傷の日より三年以内に死歿又は疾病にかゝり之が爲該傷病の日より二年以内に死歿した時（第二條省略）

第三條 特別賜金を賜與せらるべき遺族は軍人軍屬、嘱託及び雇員の妻子、夫、父母、孫、祖父母、兄弟姉妹にして本人死歿の當時より引續き之と同一戸籍内にあるものを云ふ、本人の死歿當時胎兒なる子、出生したる時は前項の規定の適用に就ては本人死歿の當時その戸籍内にありたるものと看做す（第四條省略）

第五條 第三條の遺族なき場合は本人死歿當時實家又は本家にある實父母、死歿者の家督相續人、本人死歿當時に於ける戸主の順位により同上の遺族に給すべき金額の二分の一を賜與す（以下省略）

特別賜金の賜與規定定む

陸軍で事變死歿者に

東京一日——陸軍では今次支那事變に際し死歿せる者に對する特別賜金賜與規定を制定、一日陸軍省告示を以て發表した、その要件

第一條 陸軍々人軍屬、嘱託及び雇員にして昭和十二年七月七日以後直接支那事變に關する勤務に從事し（一）戰死又は戰傷を受け之が爲該傷病の日より三年以内に死歿（二）事變地以外の地で戰傷以外の傷痍を受け之が爲該負傷の日より三年以内に死歿又は疾病にかゝり之が爲該傷病の日より二年以内に死歿した時（三）事變地以外の地で戰傷以外の傷痍を受け之が爲該負傷の日より三年以内に死歿又は疾病にかゝり之が爲該傷病の日より二年以内に死歿した時（第二條省略）

第三條 特別賜金を賜與せらるべき遺族は軍人軍屬、嘱託及び雇員の妻子、夫、父母、孫、祖父母、兄弟姉妹にして本人死歿の當時より引續き之と同一戸籍内にあるものを云ふ、本人の死歿當時胎兒なる子、出生したる時は前項の規定の適用に就ては本人死歿の當時その戸籍内にありたるものと看做す（第四條省略）

第五條 第三條の遺族なき場合は本人死歿當時實家又は本家にある實父母、死歿者の家督相續人、本人死歿當時に於ける戸主の順位により同上の遺族に給すべき金額の二分の一を賜與す（以下省略）

漁船撃沈事件の眞相

遭難漁民救助の獨逸船事實否定

内山總領事の報告

東京一日——支那側より暴戻色濃き通報ありたるドイツ漁船某丸に關する事件に關し、在漢口内山總領事より一日外務省へ左の如き報告に接した

久邇宮
多嘉王殿下薨去

東京一日——宮内省發表＝久邇宮多嘉王殿下は一日午後二時廿五分薨去あらせられた

多嘉王殿下は明治八年八月十七日御誕生

時局に對應して
企畫院を設置

東京一日——一日の閣議にて企畫院設置の件は午前十時より開かれた臨時閣議に於て決定、午後一時より首相官邸に於て發表された、企畫院は内閣總理大臣の管理に屬し、國策の樹立に關し内閣總理大臣を輔佐し、並に内閣總理大臣の命を受けて總合調整の事務を掌る、總裁は内閣總理大臣を以て之に當て副總裁は政務次官を以て之に當て委員は勅任官を以て之に當て幹事は奏任官を以て之に當て書記は奏任官又は判任官を以て之に當てる、委員幹事及書記は内閣總理大臣の奏請により之を任免する、委員は關係各廳の官制の改正により之を增加する、委員幹事及書記は定員外とする、企畫院は内閣總理大臣の官房及び各廳の官制の改正により之を廢止する、企畫院の經費は内閣總理大臣の官房及び各廳の經費の改正により之を減額する、企畫院の經費は内閣總理大臣の官房及び各廳の經費の改正により之を增額

日本とソ聯は如何に戰ふか（一）

ワシントン特電一日午後二時、カンサス・アメリカ陸軍本部中將J・J・ペッシング將軍は日本とソ聯邦間の水道にソ聯邦艦隊の一支を約一年以内に進入し來り、不法にも日ソ戰爭の誘發を計畫しつゝあるものと信じ、日ソ戰爭の時期が到來すれば、日本は直ちに之を撃滅すべく、日本陸軍は既に滿洲國境に集中の用意を整へつゝあるものと信じ、日ソ戰爭の時期が到來すれば、日本は直ちに之を撃滅すべく、日本陸軍は既に滿洲國境に集中の用意を整へつゝあるものと信じ、日ソ戰爭の時期が到來すれば、日本は直ちに之を撃滅すべく、日本陸軍は既に滿洲國境に集中の用意を整へつゝあるものと信じ、

◇

日ソ戰爭の時期が到來すれば、日本は直ちに之を撃滅すべく、日本陸軍は既に滿洲國境に集中の用意を整へつゝあるものと信じ、

◇

（一）日本は攻撃的　ソ聯は守備的

此の戰爭は日本は終始攻撃的態度に出るであらう。一氣に敵を撃滅する迄やるであらう。これに反してソヴィエットは守備的であり、長期戰が初めからの建前である。何故ならば戰爭を延ばせば延ばす程、日本は不利に陷入るからである。日本は此の戰爭を一日も早く終結せんと焦慮するであらう。其の上ソヴィエットは國際的に孤立の狀態にあるからである。此の戰爭は日本から持ち掛けて來たのでないと云ふ點に於ても、日本は速かに戰爭を終結せんと焦慮するであらう。

◇

日本は攻撃的ソ聯は守備的

◇

日ソ戰爭は數年に亘るであらう。

◇

日ソ戰爭は數年に亘るであらう。

◇

日ソ戰爭は數年に亘るであらう。

和知部隊の夜襲
凄絶・羅店鎮の白兵戦
殊勲・一将校の四十人斬り

臺臨和知部隊長

（上海九月一日）羅店北面に於ける○○部隊の戦闘に際し○○部隊長和知鷹二中将の令嬢○○子さん（二）は昨年十月廿七日午前左の如く語つた

○○付近に上陸した○○部隊は先づ羅店鎮の敵を殲滅して背後の憂ひなからしめんとし永津、和知両部隊を並べて廿七日から攻撃を開始した、その日は非常な雨の上方を使用するため出来ず、敵前約二キロを前進して夜に入つた、和知部隊は夜明によつて敵陣地に攻撃をかけるべく同夜半過ぎ前進を開始したが、この時は既に敵の攻撃を受けたので和知部隊は全部隊に対し右側攻撃前進命令を出し自ら陣頭に立つて斬り込み敵の中にゐた時は既に敵は退却した後であつた、和知部隊長は敵の機関銃陣地に入つて斬りまくつてゐる中に自然に手許に集つた兵隊は僅か二個小隊位であつたが、部隊長は泰然自若として敵陣に乗込んだ、この時は既に敵の機関銃は全部撤去してゐたが、敵の一部は逃げ遅れて我軍の中に混つてゐたので部隊長は「しまつた」と叫ぶや否や軍刀を抜いて斬りまくつたが

是も美談の一つ

是非第一陣にと 決死出陣の志願書

勇取なる水兵の父

東京一日——北支に出征したのに御願ひ申上げ候

親父様御喜しつゝ御奉公の為軍に御捧げ申上げ候

親父様の御名前を汚さぬ様一生懸命に戦ひ抜く覚悟に候

何卒御安心下さいませ

と書いた一通の手紙が一日午前十時半頃、横須賀海兵団の第一線に送られた勇ましい水兵の母からの手紙に決死出陣の歓喜を出して喜ばれるやうにと、第一線に決死出陣の志願書を出して喜ばれるやうにと、第一線に決死出陣の志願書を出して喜ばれるやうにと、第一線に決死出陣の志願書

北支を南下中の我軍 今朝山東省内に進撃

津浦線の前線部隊は 山東省内の徳州縣城を攻撃

山西省は既に三分ノ一平定

山西省の戰況 陷落近き太原

山西の山猿も逃出す

上海の戰況 相變らず猛襲

劉家巷を占領 市街戰も續く

上海の猛市街戰

廣東艦隊を爆撃

海防艦一隻を撃沈

ジャンクを撃沈

航路標識を破壊中

晩香坡市で 邦品ボイコット

一部の婦人たちが 日本製品を買はぬ

各方面のニウス

英國の排日 ボイコット

久岡文治
●晩市アレキサンダー街三六二
電話　ダグラス　七二三

●晩市メーン街一九一
電話ツリニチー五九〇エル

ATOM 仲幹杖
●晩市メーン街一九一
電話ツリニチー五九〇エル

東〔オホツク御雲商會
●電話フェアモント五五四三
電話　ヤ六二六三エル

電話ダグラス五一〇一―五一〇二
●住宅ハイランド
吉原登代

晩市バンクーバー街三四四七
電話シーモア三四四七
日本行船客切符取扱店

新小說 時代の霧

竹田敏彥

（121）

〈前回〉札（さつ）

松宮（まつみや）は、ちょっと神經（しんけい）質（しつ）らしく眉（まゆ）をひそめて、

「お願（ねが）いですわ、ね……私（わたし）、本當（ほんとう）に何（なに）も知（し）らないんですもの……」

「さあ、どうぞ……」

欣子（きんこ）に言（い）い殘（のこ）して、そのまゝドアを出（で）た。

「ふゝ、ふッ……」

春宮（はるみや）は廊下（ろうか）へ出（で）ると、一人（ひとり）で吹（ふ）き出（だ）した。

勿論（もちろん）、春宮（はるみや）にすれば、はんの封筒（ふうとう）の裏（うら）に何（なに）かいたかも知（し）れない、たゞ敵（てき）の女（おんな）の策略（さくりゃく）地（ち）を覗（のぞ）いてみたゞけのことだったが、案外（あんがい）も思（おも）いがけない收穫（しゅうかく）に過（す）ぎなかったことが、春宮（はるみや）の心（こころ）を躍（おど）らせた。

「ふゝ、ふッ……」

春宮（はるみや）は、ふたゝび、笑（わら）いがこみあげてくるのを抑（おさ）えつゝ、

「ふゝ、ふッ……」

松宮（まつみや）は、さんざん皮肉（ひにく）で神經（しんけい）を逆撫（さかな）でしておいて、終（しま）いに突（つ）き飛（と）ばしてゆくやうな春宮（はるみや）の無情（むじょう）に遇（あ）つたが

「さうだ、ぢゃ、からした方（ほう）がよい、今（いま）頃（ごろ）は、もう欣子（きんこ）の方（ほう）へ、電話（でんわ）でも掛（か）けてゐるだらう……」

と、思（おも）ひ返（かえ）すと、急（きゅう）に元氣（げんき）が出（で）て來（き）た。

「ぢや、今度（こんど）も結構（けっこう）ですわ……」

松宮（まつみや）はつゞ神醉（しんすい）めた顏（かお）つきをした。

「お願（ねが）ひですわ、ね……私（わたし）、本當（ほんとう）に何（なに）も知（し）らないんですもの……」

欣子（きんこ）に言（い）ひ殘（のこ）して、そのまゝドアを出（で）た。

「ふゝ、ふッ……」

春宮（はるみや）は廊下（ろうか）へ出（で）ると、一人（ひとり）で吹（ふ）き出（だ）した。

勿論（もちろん）、春宮（はるみや）にすれば、はんの封筒（ふうとう）の裏（うら）に何（なに）かいたかも知（し）れない、たゞ敵（てき）の女（おんな）の策略（さくりゃく）地（ち）を覗（のぞ）いてみたゞけのことだったが、案外（あんがい）も思（おも）いがけない收穫（しゅうかく）に過（す）ぎなかったことが、春宮（はるみや）の心（こころ）を躍（おど）らせた。

あた惡戲氣の多分な指（ゆび）を指（さ）すつもりだと思（おも）った。

いや、どころが、その結果（けっか）は、廳務（ちょうむ）に殘（のこ）された二人（ふたり）の間（あいだ）に、それこそ意外（いがい）な程（ほど）の急激（きゅうげき）な變化（へんか）を促進（そくしん）して、曲（まが）るか反（そ）るかの恐（おそ）ろしい事（こと）を持上（もちあ）らせてしまつたのだ。

「何（なに）にお願（ねが）されていらしたの……」

欣子（きんこ）は、春宮（はるみや）を見送（みおく）ると、尖（とが）つた眼（め）を松宮（まつみや）の方（ほう）へ、返（かえ）した。

「いや、その、看護士（かんごし）さんを紹介（しょうかい）してくれと仰（おっ）しやいましてね……」

松宮（まつみや）、欣子（きんこ）の强（つよ）い視線（しせん）に觸（ふ）れると、嘘（うそ）も何（なに）も、下（くだ）らなくなつてしまつた。

「看護士（かんごし）さんを……」

「ぢや、今度（こんど）も結構（けっこう）ですわ……」

松宮（まつみや）はつゞ神醉（しんすい）めた顏（かお）つきをした。

「お願（ねが）ひですわ、ね……私（わたし）、本當（ほんとう）に何（なに）も知（し）らないんですもの……」

欣子（きんこ）に言（い）ひ殘（のこ）して、そのまゝドアを出（で）た。

「ふゝ、ふッ……」

春宮（はるみや）は廊下（ろうか）へ出（で）ると、一人（ひとり）で吹（ふ）き出（だ）した。

勿論（もちろん）、春宮（はるみや）にすれば、はんの封筒（ふうとう）の裏（うら）に何（なに）かいたかも知（し）れない、たゞ敵（てき）の女（おんな）の策略（さくりゃく）地（ち）を覗（のぞ）いてみたゞけのことだったが、案外（あんがい）も思（おも）いがけない收穫（しゅうかく）に過（す）ぎなかったことが、春宮（はるみや）の心（こころ）を躍（おど）らせた。

あた惡戲氣の多分な指（ゆび）を指（さ）すつもりだと思（おも）った。

いや、どころが、その結果（けっか）は、廳務（ちょうむ）に殘（のこ）された二人（ふたり）の間（あいだ）に、それこそ意外（いがい）な程（ほど）の急激（きゅうげき）な變化（へんか）を促進（そくしん）して、曲（まが）るか反（そ）るかの恐（おそ）ろしい事（こと）を持上（もちあ）らせてしまつたのだ。

「何（なに）にお願（ねが）されていらしたの……」

欣子（きんこ）は、春宮（はるみや）を見送（みおく）ると、尖（とが）つた眼（め）を松宮（まつみや）の方（ほう）へ、返（かえ）した。

「いや、その、看護士（かんごし）さんを紹介（しょうかい）してくれと仰（おっ）しやいましてね……」

松宮（まつみや）、欣子（きんこ）の强（つよ）い視線（しせん）に觸（ふ）れると、嘘（うそ）も何（なに）も、下（くだ）らなくなつてしまつた。

「看護士（かんごし）さんを……」

「ホッ……」

松宮（まつみや）、狐（きつね）に眼（め）を上（あ）げたが欣子（きんこ）の顏（かお）が不機嫌（ふきげん）に曇（くも）つた。

「オヤ、お歸（かえ）りなさい……」

春宮（はるみや）、すく椅子（いす）を離（はな）れて、欣子（きんこ）に背（せ）を讓（ゆず）つたが、わざと遠（とお）ざかるやうな素振（そぶり）に、

「いや、お易（やす）い御用（ごよう）です……」

松宮（まつみや）、名刺（めいし）を出（だ）して紹介（しょうかい）の勞（ろう）を取（と）らうとしたそのとき、すつと欣子（きんこ）が入（はい）つてきた。

日進

三上於菟吉作
齋藤五百枝畫

（挿絵）

赤の消息（その十一）

佐渡のおでこれをきいたものの、又の渡り鳥が日頃に空の國へ、行かなかつて、弟をにいやたつのだつた。

乙御前の神社、なほ上野もすき上野の野山を越して、はるか信濃路へはいつたそうだが、その空のどこかに、世をかけ離れた生の空のどこかへ、消え、観れるよりは、ないの底が、官兵衛行に預けられて、捕縛されてある日朗法師、この明暮を、居ても立つても居られないやうに、考行に綺語を重ねてゐる。

捕縛の一生は、この主の空の、なかに埋められ、その後は、日蓮の日をたよりに、一歩も、外へ動くことも、北へ、南へ動くことも許されず身となつてもう、はるかに眺めはいたしまいたが、たゞ、曲げて一度、たつた一日、師の坊の御顔をがみたさに、さぞ、お苦しまされてくるさまを、察しての事。

食を通らないやうに、ひどくやせ、ふくろうのやうに、目に目にそれを苦行に備へ、五日目は食らない米粒が動かされる。

「私のやうに申すもののさがりまして、命を消なるとさがりまして、法華信仰者来間、法華信仰者それにかけて、ある日のこと、

「日朗師がいはるゝ、客らは深い感動にうつむいた。

光朗は、客へも聞こえないほどの声で、

「日朗師、客へも聞こえないほどの声で、

「日朗師、客へも聞こえないほどの声で、

「日朗師

大陸日報　第九千二百四十二號　（金曜日）

慄然たり漢奸狩りの現状
赤い廣場四千人の血を呑む
白晝の虐殺！果然たる群衆

上海九月十四日發……（ロイター）……

日本人がめかつた再びガーン……（ロイター）……

思ひ出すが、この上海でいふカンカンはたゞ生命に關する『漢奸』なんて漢奸は滅多にあり、スパイであり、一度漢奸と見做された最後の運命である、いはゞ支那全土に於ける漢奸の恐怖が渦巻いてゐる、支那人によつて漢奸にすぎない恐怖であらう？、筆者は一日漢奸の恐怖渦巻くフランス租界から南市支那街へ潜入した

排の乳房である、こゝで『それ見よ上海のは絶對に危險です』とオー君がいふ、町角には土嚢を築いてゐびつたり閉ざされた鐵の門が聳立してゐる、あの中が死の上海城内だ、バン〳〵と銃聲がする、さよつとして連續手をつくと『漢奸です』とオー君が教へる、なよく寒氣を通して押へられたやうな銃聲がつづく、あの塔の下が銃殺所だといふ、塔は支那第一流命の音樂家黄友棣氏の銅像だ、老閘門の廣場、支那民衆運動の廣場、上海の『赤い廣場』は毎日幾十人となく殺される漢奸の血でそめられて文字通り『赤い廣場』となつてゐる、この廣場で漢奸狩りはじまつて以來の支那最大の虐殺が演じられようとしたことがある、支那保衛組織の一つシーシー團の團長陳立夫が銃殺されかけたといふのだ、陳立夫はこの廣場に突然として立つ銅像の陳其美の孫である、カン〳〵におこつた陳立夫が機密費を使つてゐる蔣介石が英大な機密費を使つてゐる蔣に漢かん狩りの實施が上がらないといつて大憤慨、陳立夫を銃殺せよと怒鳴るのだ、お祖父さんの銅像の下で銃殺されるといふ淨土はない瀬戸際に追ひこまれた陳があわてふためいてもルンペンを狩り集めて漢かん掃除を始めたのだ、ところがこのルンペンの中にまぎれた漢奸が出る、それをまた漢奸が射殺して……と露くる所を知らぬ漢奸狩り……

耳がスローになつた、と『あの電柱の上へ』とオー君にさゝやかれてつと見ると、遙か銅像附近の上に四匁のものがぶら下つてゐる、それが何であるかはハッキリしないが、あれは首をくゝられた所だといふ、銃殺された漢奸の首が箱の中に入れられてさらし物になつてゐるのだ、箱の中の首は腐つて脂を出すであらう、目からも鼻からもボタリ〳〵と脂を流す、これに眞黒に蠅がたかり支那の群衆はこの首を十重二十重に卷いて無表情に眺めるのだ、漢奸の銃殺にしても白晝この支那大群衆の重圍の中においてである

日本語が話して
共場で射殺さる

敵陣になんと十九日
奇蹟以上の生還勇士
戰傷の四人が金櫃死守

上海、龍居鎮九月十六日發（先月廿八日潮州の激戰で戰傷を受けた四勇士が龍の眞只中に取殘された生還談がある――

この四勇士は和知部隊の山下文吉上等兵（高知縣出身）戸鍛冶利春一等兵（同前）藤平一等兵（同）滑水三三男一等兵（大阪府出身）の四名で

十八月十二十八日拂曉の激戰に奮戰する中四名とも負傷して田の中に昏倒、互に我に返つた時には友軍は遠く移動し劉屯近くの呂家橋クリーク北側の野原の中に取殘されてゐた、五十メートル離れたクリークの西側には敵大部隊が集結し少しでも頭を上げるや小銃の嵐射を受けるといふ危險に曝された上持參した水も乾麵麭も既に盡きて三日目に至り最も元氣な山下上等兵と宮里一等兵が夜に入るを待ち食を求めて附近をさがす中桐岡部隊の清水主計が敵彈雨を冒して救援に來つたのだ、二人が電話線から出る

行李
の安全を友軍に

十月十日發……（ロイター）……

右手でしつかと押へてゐる大行李を發見、中を調べると何んとそれは桐岡部隊の大行李で○萬圓を收めた金櫃であつた、途端に重大任務を自覺した四名は何とかして重圍を切拔け貴重な金櫃に知らさねばならぬと共に聲ひ合つた、それからの四名はあたりに名譽の戰死を遂げた戰友の跡をさがしては生米、乾麵麭をかじり、叢の濁水を飲んで僅かに飢を凌ぎ何時來るとも知れぬ友軍の救助を待つて晝夜を送り迎へるうち十九日目の十四日朝となつた

戸鍛冶一等兵がふと附近の森に日章旗の揚がるのを發見『オイ、味方が來たぞ』といふ叫びに他の三名も腹にまいた日の丸の小旗を取出し根かぎり振つたが友軍の知る所とならなかつたばかりか却て敵から小銃の亂射を浴びた、やむなく夜に入るを待ち宮里一等兵が疲勞の身をも顧みず銃砲彈の

雨を
潜つて泥田の中をいざり行くこと三百メートル、やうやく友軍に迫りつゝいて之を告げた

十四日四勇士は重傷の身を病床に横へながら交々語る

『金櫃を發見した時は全く感きはした、天幕や外套で上から包みこれを死守することに決心しました、食物は山下上等兵と宮里一等兵がさがして呉れましたが、我々の生命は全く兩君のために繋がれたものです、雨の降る度毎につゞく濡れになつて戰友のことなどを話し合ひましたが、自分ながらよく生きられたと思ひます、十九日間一番はしかつたのは水でした』

秋のバザー
村雲婦人會が日蓮宗教會で

召集令と夢に見る母
新西院で上映

新西院では來る三十、三十一兩日、日蓮宗佛教會に於て映畫「召集令」の映寫會を開催する事となつた、同映畫は既に各地及スタジオンにおいて多大の好評を博したもので題

講演と映畫
清水牧師がヘネーで

ヘネー基督教會では來る三日（土）午後七時より又兒會を開き其の席上において日、滿、支の親善に關し清水牧師の講演と同時に撮影の大スクリーンに映寫觀覽するに就て會員一般の參加を希望する、尚當日は午後三時より會員の慰安會を催すと共に新光社のニュース映畫及び時局ニュース映畫として新光社のニュース映畫、外に日活寫眞「夢に見る母」及び時局ニュースを上映する、多數の來觀を希望する

新西院語學校
夜學校を開始

新西院語學校にては來る三日（土）午後七時より又兒會を開き其の席上において日、滿、支の親善に關し清水牧師の講演と同時に撮影の大スクリーンに映寫觀覽するに就て會員一般の參加を希望する、尚當日は午後三時より會員の慰安會を催すと共に新光社のニュース映畫及び時局ニュース映畫として新光社のニュース映畫、外に日活寫眞「夢に見る母」及び時局ニュースを上映する、多數の來觀を希望する

本派女青通信

本派佛教女子青年會では來る三日（土）午後七時半より同佛教會に於て映畫「召集令」の映寫會を開催する事となつた、同映畫は既に各地及スタジオンにおいて多大の好評を博したものである

本派男女佛青
練習演說會

來る八日（金）午後八時半より本派佛教會堂に於て男女佛青の演說練習會を催す、今回は各會員一般の參加を歡迎する

本派女青通信

本派佛教女子青年會では來る三日（土）午後七時半より同佛教會に於て映畫「召集令」の映寫會を開催する事となつた、同映畫は既に各地及スタジオンにおいて多大の好評を博したものである

本派日曜學校
合同禮拜

毎月第一日曜午前十一時本派佛教會堂に於て本派日曜學校第一部、第二部及ビップス日校の合同禮拜を行ふ事に決る、教師の說教があり、遺族及會員一般の參詣を希望すると共に一般の參詣を希望する

河畔教會便り

△木曜婦人會　三日（日）午後二時ミッション幼稚園教室でテート女史の歡迎會を兼ね婦人會の例會を開催△教會の集會　日曜午後六時半教會堂、同七時半佛語（時間變更）說教「生命の清殺」牧師△祈禱會　五日（火）午後二時より會堂にて△聖書研究會　七日午後七時半より牧師館にて△日曜學校午前九時

御結婚式
日本振袖

●結婚式ベール及髮飾御披露宴用無料貸します　●日本着物お貸しします　●結婚式ベール、髮飾等は無料でサービス

花嫁姿の御支度
無料貸

結婚式用髮飾及ベール無料貸します　美容術　オイルパーマネントウエーブ　最新式パーマネントウエーブ

御結婚式
日本着物

儀式用振袖あり

紙はり

破れ障子を完全に綺麗に張り替へます　●　良質の紙を用ひ丁寧に張ります　●　多年の經驗を以て美しく安價に致します　●　遠近に拘はらず出張いたします　●　後に至り惡しき個所出來たる場合は無料にてなほします

金、土大安賣

十月一日、二日

チキン、ライス、スープ二罐一九
クラム、チャウダー、スープ二罐一九
亀甲せんべい一斤二〇
チョコレートキャラメル一箱五九
ストロウベリジャム四斤罐四九
トイレット紙（大）四個二三
バター一斤三二
玉子一打三六
すべての品物を最も廉價にて願ひます

電話を御利用下さい
迅速配達

良い品を常に安くお願する同胞唯一のクロセテリヤ

松宮食料品店

パウエル街二〇五　電話シー三五九七

Powell Drug's
2 for 1
SALE

◆ライオン齒ミガキ　三日間に限り　平常一個　拾仙　二個　拾仙
◆上等齒ブラシ　拾五仙　同　拾五仙
◆上等アニオンスキン紙便箋　拾五仙　同　拾五仙
◆赤十字應急手當袋　五拾仙　同　五拾仙
◆脫脂綿（正一パウンド入）　七十五仙　同　七拾五仙
◇花王石鹸　十仙　二個　十仙
◆上等魔法瓶　五拾仙　同　五十仙
◆龜田六神丸　一弗　同　一弗
◆萬病感應丸　二弗　同　二弗
◆カツドレバーオイル　十六オンス入　一弗　同　一弗
◆ネオ文研藥用胚芽　一弗五拾仙　同　壹弗五十仙

御藥、營養劑

	平常一個	三日間に限り
▲アスピリン（ナイアル）	二十五仙	二個　廿五仙
▲キナエン・キャプセル	五十仙	同　五十仙
▲ホワイトパイン	一弗	同　一弗
▲同キャンファーレーテッドオイル	二十五仙	同　廿五仙
▲ヨジームチンキ	二十五仙	同　廿五仙
▲メキーロクロム（赤い傷藥）	二十五仙	同　廿五仙
▲ホワイトレニメント	二十五仙	同　廿五仙
▲アンテーアシドバウダー	五十仙	同　五十仙
▲カスカラ錠	五十仙	同　五十仙
▲ナイアル目藥	二十五仙	同　廿五仙
▲ブロクサイド（ナイアル）	二十五仙	同　廿五仙
▲カツドレバーエキストラクト	一弗	同　一弗
▲ハリバットオイルキャプセル	一弗廿五仙	同　一弗廿五仙
▲ビタミンADキャプセル	七十五仙	同　七十五仙
▲アイホンイーストタブレット	二十五仙	同　二十五仙
▲ユーカリ油	一弗	同　一弗
▲ピーフアイロンワイン	一弗	同　一弗
▲カツドレバーオイル錠	一弗	同　一弗

御化粧品類

	平常一個	三日間に限り
▲パウダーパフ	十仙	二個　十仙
▲バニシングクリーム（ミユリアルアスター）	五十仙	同　五十仙
▲粉白粉	同	同　同
▲頬紅	五十仙	同　五十仙
▲口紅	同	同　三十五仙
▲ナイロツトピユテーバルム（水白粉）	五十仙	同　五十仙
▲ナイアルバニシングクリーム	五十仙	同　五十仙
▲ライラツクヘーアオイル	五十仙	同　五十仙
▲コヽナツトオイルシヤンプー	五十仙	同　五十仙
▲ターシヤンプー	五十仙	同　五十仙
▲クニーンヘーアトニツク	七十五仙	同　七十五仙
▲ハーストンヘーアトニツク	六十仙	同　六十仙
▲同大	一弗	同　一弗
▲デードリーム練油	六十仙	同　六十仙
▲ダローンバニシングクリーム	七十五仙	同　七十五仙
▲ラベンダーブリアンテン	二十五仙	同　二十五仙
▲キユカンバーウイツチヘーズルローション	五十仙	同　五十仙
▲その他		

公認藥局　パウエル藥店

パウエル街三九九　電話シーモア七五〇二

●みんな必要品です、みんな御買ひ德です
パウエル藥店の2フォア1セール

愈々本（一日）金曜（二日）土曜（四日）月曜の三日間

御家庭日用品

	平常一個	三日間限り
▲一ケ年保證付ゴム湯たんぽ	一弗	二個　一弗
▲二ケ年保證付ゴム湯たんぽ	二弗	同　二弗
▲洗腸洗滌器コンビネーション	一弗五十仙	同　一弗五十仙
▲ミント煉齒ミガキ（ナイアル）	二十五仙	同　二十五仙
▲齒ブラシ	十五仙	同　十五仙
▲家庭用便箋	二十仙	同　二十仙
▲同封筒	十五仙	同　十五仙
▲鉛筆	五仙	同　五仙
▲魔法びん	五十仙	同　五十仙
▲ブロクサイド（オキシフル）	廿五仙	同　廿五仙
▲ホータイ一吋十ヤード	十五仙	同　十五仙
同二吋十ヤード	廿仙	同　廿仙

ベビー用品

	平常一個	三日間に限り
▲オリーブオイル	三十五仙	二個　三十五仙
▲ベビーパウダー	廿五仙	同　廿五仙
▲同用キャステル石鹸	十仙	同　十仙
▲同ミルクボツトル	十仙	同　十仙
▲硼酸	廿仙	同　廿仙
▲ミルクマグネシア（大びん）	五十仙	同　五十仙
▲ベビーカツプ・シロツプ（小兒せき藥）廿五仙		同　廿五仙
▲ベビーウオームシロツプ（子供虫下）五十仙		同　五十仙
▲小兒用硼酸軟膏	廿五仙	同　廿五仙
カスターオイル	廿五仙	同　廿五仙
▲小兒用亞鉛化軟膏	廿五仙	同　廿五仙
▲ベビー乳首	十仙	同　十仙